

F-5 家政学原論の範囲と内容について 家政学原論研究Ⅲ
十文字学園女子短大 原 田 一

目的 家政学は多数の基礎科学によって支えられた総合応用科学の性格をもつ若い科学であるから、ともすれば他学にケン引されて分裂のおそれが多い。雑多の研究を統整して、その向うべきところを知らせ、1個の独立科学たらしめるものは家政学原論にほかならない。したがって大学家政学部や短大家政科ではこれを必修科目とする必要がある。そのためには、家政学原論の講義内容として含まれるべき項目が明確にされなければならない。本研究はそれを目指した。

方法 家政学原論ないしそれに類する書として刊行されたもの、および他学における原論書を集め、その内容を分析して、必要にして充分な項目を選び出した。

結果 家政学原論は、学説の相違は別として、少なくとも次の内容を含まねばならない。その中のどれかに偏したり、欠けた項目のないように考慮されるべきである。
1 緒論(家政学原論とは何か、その必要性)、2 家政学の性格(定義、研究対象とその範囲、全科学における家政学の位置、家政学と他学との関係、技術・芸術・道徳・宗教との関係)、家政学の研究対象(家庭生活の本質・内容・機能、家庭生活における法則性、家庭生活の理念・理想、家庭と国家社会との関係)、家政学の歴史と現状(日本、外国)、家政学の内容と体系(各分科の内容、分科間の関係、家政学の体系、家政学原論の適用(家庭経営、家庭科および家政学の教育、職業等へ)。家政学原論は、家庭経営学や家族関係学の内容とまぎらわしい点があるので、一線を画するように留意すべきである。